

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	桧山 永得
論文担当者	主査 道免 和久
	副査 山門 亨一郎
	副査 松山 知弘
学位論文名	Safety and Effectiveness of Drip, Ship, and Retrieve Paradigm for Acute Ischemic Stroke: a Single Center Experience (急性期脳梗塞に対する Drip, Ship and Retrieve 療法の有効性と安全性の検討)
論文審査の結果の要旨	
<p>急性期脳梗塞に対する血栓回収療法をより多くの患者に適応するために行われている Drip, Ship and Retrieve システムの有効性と安全性について解析を行った。</p> <p>2013年9月から2015年8月までの24ヶ月間に、兵庫医科大学急性医療総合センターで血栓回収療法が施行された脳梗塞患者109例のうち、血栓溶解療法である tissue plasminogen activator (t-PA) 静注療法後に血栓回収療法が施行された45例を、他施設で t-PA 静注療法を受けた後に転送された33例（転送群）と、当院に直接搬入された12例（直接群）に分けて解析を行なった。</p> <p>その結果、両群においては患者背景に有意差はなく、治療時間経過や再開通までの時間、さらには閉塞血管の再開通率にも有意差を認めなかった。また、発症から3ヶ月後の患者転帰や有害事象の発生率についても両群間に有意差を認めなかった。</p> <p>以上から、当施設における Drip, Ship and Retrieve システムは直接搬入患者とほぼ同等の治療結果を得ることができることが示唆された。転送による時間を取り戻すためには、MRI などの検査画像を含んだ医療情報を、患者が到着する前に搬送先の病院に提供しておくことが重要と考えられた。</p> <p>本論文は血栓回収療法の普及および治療成績向上や予後の改善に寄与するものと考えられ、学位論文に値するものと評価した。</p>	